

1 活動名 周産期医療の先進地視察（名古屋市立大学医学附属西部医療センター）

2 調査の目的

(1) 本市における課題

宿日直を含む24時間での診療体制の維持や、切迫流産・早産の他、緊急を要する帝王切開術などの産科救急に対応し、安全・安心なお産を継続していくためには、複数医師の確保が求められる。県内では1000件の分娩を平均10人の産科医が担当しており、500件の分娩を扱うのには、5人の医師が必要になる。

(2) 調査の必要性

松本地域における産科医療体制の崩壊をくい止める緊急避難措置として、病院産科医師の負担軽減と離職防止が必要である。そのため、平成20年にネットワーク協議会を設立し、現在も分娩医療機関・検診協力医療機関との連携している。

分娩医療機関・検診協力医療機関の役割分担は、設立当初から現在に至るまでの間で置きかえが進んでおり、現在、検診協力医療機関の割合が多くなっている。目的の一つである病院産科医師の負担軽減の面で有効性が高く、制度を継続する必要があると言える。

一方で、この制度はあくまで医療側の負担軽減を目的に行われており、妊婦側に対する配慮に欠けているとの声がある。そこで、先進地にて具体的な運用を直接担当者から聴き取るため、現地調査が必要である。

(3) 調査項目 周産期 save ネットワーク等について

3 調査地選定理由

(1) 名古屋市立大学医学附属西部医療センター

西部医療センターでは、産科セミオープンシステムを開設している。地域周産期母子医療センターとして、地域の母子の安全・安心を守る病院であるため、このシステムは「普段の妊婦健診はかかりつけ医で、分娩は当院で」という連携システムを構築している。

4 調査結果

(1) 実施日 令和5年7月12日

(2) 出席者 7名 太田更三、犬飼信雄、阿部功祐、若林真一、今井ゆうすけ、土屋眞一、宇留賀響

(3) 名古屋市立大学医学附属西部医療センター

・過去5年程度の分娩件数の推移

2018年 1250件

2019年 1300件

2020年 1161件

2021年 1227件

2022年 1154件

(4) 成果・所感等

令和2年よりネットの予約フォームから予約が可能となり、24時間いつでも予約ができるということだった。住民への広報活動も充実しており、HPも非常にわかりやすく、本市とは大きく異なった。

例えば、本市のネットワーク協議会のHPでは、「産科医療機関一覧」にある信大病院HPリンクを押してもエラーとなってしまうような状況である。松本市立病院HPにおいても「健診協力医療機関については松本福祉事務所のホームページをご覧ください」というPDFが貼られているのみで、たらい回しでどこの医療機関かわからない。西部医療センターと妊婦側に対する配慮に大きな差を実感した。

他にも、現在作成及び配布している「共通診療ノート」は、妊婦の安心感につながっており、継続して実施する必要があるが、デジタル化とデータ共有等のDXを進める取り組みを提言していきたい。

5 政務活動費

(1) 使途項目 調査旅費

(2) 支出額 451,780円（交通費25,940円＋宿泊費29,600円＋日当9,000円×7名）

—以 上—

1 活動名 歯髄再生医療、口腔医療等についての先進地視察（エア・ウォーター国際くらしの医療館・神戸）

2 調査の目的

(1) 本市における課題

松本市は、菅谷前市長のもと平成25年3月に健康寿命延伸都市宣言をしている。臥雲市政となり、これをどうシンカさせていくのが課題である。

(2) 調査の必要性

体の健康に密接していることで、近年特に注目されている口腔内の健康。なかでも「自分の歯」を長く保つことが、健康寿命を延ばす鍵となるとされ、ひどい虫歯や外傷などで歯髄を失った歯に対する新たな治療法「歯髄再生治療」が確立された。

そこで、先進地にて具体的な最先端の治療法を直接担当者から聴き、最先端機器等に触れるため、現地調査が必要である。

(3) 調査項目 歯髄再生医療、口腔医療等について

3 調査地選定理由

(1) エア・ウォーター国際くらしの医療館・神戸

国際くらしの医療館・神戸は、人々の健やかな「くらし」を生み出す研究開発拠点として、2019年5月に設立。ここでは、エア・ウォーターグループの取り組む新たな分野である歯科の再生医療、新しい視点での医療機器開発や医療関連サービスの創造、くらしに寄り添った医療を通じて健康長寿を実現する為の取り組みを行っている。

4 調査結果

(1) 実施日 令和5年7月13日

(2) 出席者 7名 太田更三、犬飼信雄、阿部功祐、若林真一、今井ゆうすけ、土屋眞一、宇留賀響

(3) エア・ウォーター国際くらしの医療館・神戸

歯髄再生治療とは抜髄治療をおこなった歯の根管部を完全に除菌した後、自己の不用歯から採取した歯髄幹細胞を培養加工した細胞を根管部に移植し、歯髄や象牙質を再生する技術である。歯髄を再生することにより、「健康な歯」を取り戻し、自分の歯で美味しく食べることで健康長寿を実現できる。

(4) 成果・所感等

歯の神経組織・歯髄には、血管・神経の誘導に有利な幹細胞が多く含まれ、神経や筋肉、臓器に関わる疾患等、様々な治療に広がる大きな可能性を秘めているということだった。歯髄を核に、再生医療に備えた医科との連携、乳歯などから採取した歯髄幹細胞を保存するバンク事業など未来に向けた研究・開発に引き続き注視し、松本市民の健康寿命延伸策に繋げていく。

また、世界に先駆けて8K技術を内視鏡カメラに取り入れる医療応用を実現している。世界最小・最軽量の8K硬性内視鏡カメラなど、エア・ウォーターグループの様々な製品やサービスを実際に見て、触ることができた。

5 政務活動費

(1) 使途項目 調査旅費

—以 上—

1 活動名 産科医療の先進地視察（大阪市立総合医療センター）

2 調査の目的

(1) 本市における課題

宿日直を含む24時間での診療体制の維持や、切迫流産・早産の他、緊急を要する帝王切開術などの産科救急に対応し、安全・安心なお産を継続していくためには、複数医師の確保が求められる。県内では1000件の分娩を平均10人の産科医が担当しており、500件の分娩を扱うのには、5人の医師が必要になる。

(2) 調査の必要性

松本市立病院の産婦人科では、2名の女性医師と3名の男性医師及び18名の助産師が勤務している。分娩件数は、平成26年には524件だったが、その後、減少傾向が続き令和3年には173件と3分の1にまで減少。それにより、スキルアップの機会が減った若い助産師の離職が目立つなど悪循環に陥っている。医師や助産師等が安心して勤務が出来る診療体制づくり、魅力ある勤務環境の整備が必要と言える。

そこで、先進地にて具体的な運用を直接担当者から聴き取るため、現地調査が必要である。

(3) 調査項目 産科医療の課題と現状等について

3 調査地選定理由

(1) 大阪市立総合医療センター

大阪市立総合医療センターは、平成26年に独立行政法人化した。医師等の職場環境に配慮し、人材確保に工夫をしている。

4 調査結果

(1) 実施日 令和5年7月13日

(2) 出席者 7名 太田更三、犬飼信雄、阿部功祐、若林真一、今井ゆうすけ、土屋眞一、宇留賀響

(3) 大阪市立総合医療センター

・過去5年程度の分娩件数の推移

平成30年度 791件

平成31年度 1008件

令和2年度 905件

令和3年度 945件

令和4年度 979件

(4) 成果・所感等

現在の産科常勤医師は8名で、非常勤医師は2名勤務中。非常勤医師については、産科婦人科のシニアレジデント5名、後期研修医3名の8名在籍しているが2名以外は産休中または婦人科研修中、院外地域研修中ということだった。

産科では、大阪公立大学産婦人科から医師の派遣を受けているが、大阪公立大学および各関連病院自体も人員が充足していない。これを受けて大阪公立大学の人事にとらわれない採用の産科医師の常勤医師の採用も認めてもらっているが、なかなか充足されていないのが実情。特に産科では全国的にも女性医師の比率が高く、結婚・出産・育児により転職や休業、退職を余儀なくされる医師の比率が高い診療科と言える。

そこで、女性医師の働きやすい環境を優先できる職場環境に配慮しており、たとえば結婚や出産、育児に関わる業務の縮小については制限を設けていないという。当直回数も一律の回数を求めるのではなく、ある程度の希望に応じた回数で構わず、回数が少ないことで人事考課を下げることはないことを明確に示していた。

なお、助産師において課題等なく充足しており、今年度においては助産師の募集は行っていないということだった。大阪市立総合医療センターでの取組を参考にしていきたい。

5 政務活動費

(1) 使途項目 調査旅費

—以 上—

1 活動名 最先端科学技術の先進地視察（大型放射光施設 SPring-8）

2 調査の目的

(1) 本市における課題

科学技術の革新が目まぐるしい中、最先端のテクノロジーをどのように活用していくのが課題である。

(2) 調査の必要性

急速に変化する時代の中で、松本市の様々な課題を科学技術を活用し解決できないか。先進地にて最先端の研究に触れ、直接専門家からの知見を聴き取るため、現地調査が必要である。

(3) 調査項目 最先端科学技術について

3 調査地選定理由

(1) 大型放射光施設 SPring-8 （相生市）

大型放射光施設 SPring-8 では、放射光を用いてナノテクノロジーやバイオテクノロジー、産業利用まで幅広い研究を行っている。世界最高性能の放射光を生み出すことができる大型放射光施設であり、国内外の産学官の研究者等にかれた共同利用施設である。1997年より放射光を大学や公的研究機関や企業等のユーザーに提供しており、手続きを行えば、誰でも利用することができることから選定した。

4 調査結果

(1) 実施日 令和5年7月14日

(2) 出席者 7名 太田更三、犬飼信雄、阿部功祐、若林真一、今井ゆうすけ、土屋眞一、宇留賀響

(3) 大型放射光施設 SPring-8

1997年10月

10本のビームラインで供用を開始

1999年2月

全長200mのビームライン稼働

2000年5月

赤外線用ビームライン、全長1kmのビームラインが稼働（6月）

2007年9月

26本の産業利用ビームラインが稼働

2008年4月

次期高度化計画の検討開始 (SPring-8 と SACL A の相乗効果含む)

2009 年 10 月

東京大学のビームラインが稼働

2011 年 6 月

X 線自由電子レーザー施設(SACL A)発振

2012 年 3 月

SACL A 供用開始

2012 年 4 月

加速器運転設備の老朽化対策・改修を開始

2013 年 10 月

合計 57 本 (研究機関・企業利用向け 26 本、理研運用 12 本、研究機関・企業専有 19 本)
稼働

2017 年 10 月

供用開始 20 年の記念式典開催 (20 年間で延べ約 20 万人以上が利用)

(4) 成果・所感等

SPring-8 は、1998 年に和歌山市で 4 人が死亡した毒物カレー事件でヒ素の鑑定に使われて以降、様々な科学捜査に利用されている。現在は「法科学研究グループ」も設置し、警察の科捜研とも密接に連携し、実際の事件の真相解明に貢献しているとのことだった。

他にも、SPring-8 の高エネルギー X 線 CT スキャンを利用すれば、恐竜化石の骨組織の撮影もでき、化石を切断せずに、高精度に観察できる。その骨組織データから死亡時の年齢や成長速度等がわかると説明していただいた。

施設を見学しながら、様々な活用事例を紹介してもらった。引き続き最先端科学技術の研究・開発に注視し、市民益に繋げていきたい。

5 政務活動費

(1) 使途項目 調査旅費

—以 上—